

編 集 後 記

日本の病院の発展に寄與しようとして出発した本誌は、病院の運営、管理に必要な知識の提供は勿論、病院に関する各方面の声もとり上げて、社会の人と病院の人とのお互の理解を深めることも考えて編集して行くつもりです。つまりこと病院に関することは本誌を見れば何でも解つて頂けるということをモットーとしたいと思います。創刊号を作る当時には、日本にはその方面の専門家が殆どいないから、はたして月刊でやつて行けるだろうかあやぶまれました。然し、どの執筆者も特に御多忙の方ばかりであるに不拘、原稿をお願いすると喜んでお引受け下さつて、而もその内容はどなたも同様に感銘されるような病院に対する深い熱情を感じます。ということは当然必要なものであつたに不拘、今迄発刊されなかつた事が不自然であつたものでせう。従つて本誌の責任が重大であることを改めて痛感しております。

諸本号では東医務局長が終戦後病院問題が特に取上げられた経緯と、今後の日本の病院の行き方をお示しになり、坂口先生は永年の病院経営の御経験から、適正医療の具現は病院の正しい管理のあり方が基本であることを指向された。前号掲載の鹽田先生の御説と合せて、日本の病院の大道を示されたものとして特筆すべきものであろう。吉田は新医療法の精神とアメリカの病院の精神とを比較しながら日本の病院の現況に反省を加えて行く態度で号を進め行くつもりです。本号に病院管理の座談会を掲載した。この座談会はとりあえず、病院管理研修所の人達がどんな考えを持つてゐるかを御参考にと取上げました。病院に社会事

業が本質的に組合わされなければならないものであるに不拘、從來やゝもすると商業主義に流れ易かつた日本の病院にとつては、千種先生の御警鐘は社会保障制度上中核的機関にならなければならない現在、大いに反省をうながされます。山元氏は今度滋賀大学の事務局長に榮轉されましたが、病院經理の研究に対する御抱負をもらされております。保良課長は看護婦出身の課長として看護行政の先頭に立たれ、日本の看護改革に日夜苦心されておられます。守屋研修所主事は愈々具体的問題を取り上げられました。先ず院長学各論の一端というべきでせう。吉武助教授の原稿は病院管理上の病院建築の改造、新病院建設に必ず参考になればならないものでせう。しかも氏が病院管理を消化されておられることに敬意を感じます。中村事務官は病院の労務管理のエキスパートで、複雑な多数の人々を使用する病院ではこの問題は重要です。中尾、岩佐両技官は新しい病院國土計画について漸次その姿を御示し下さることを期待します。さてこの編集全体から感ずることは、内容はどの一つを取り上げてでも熟読されるもののみですが、編集が未だ板につかず、堅苦しいものになつてしまいました。大いに改良して行くつもりです。病院機能の分類、廣告の編集、その他各方面の材料収集を企画しています。御援助を願つて、綜說的のものと平行して、各論的或は症例的なものを載せて行きたいと思います。読者の声を御聞かせ下さい。

(吉田幸雄)

編 集 委 員

橋本 寛敏(聖ルカ病院) 尾村 偉久(厚生省)
吉田 幸雄(厚生省) 守屋 博(東京第一病院)
千種 峯藏(済生会) 木下 正一
久松榮一郎

病 院 (第1巻第2号)

発 行 所

東京都文京区駒込林町 172

定 價 80 圓 概算前金 500圓

昭和24年7月25日印刷

學 術 書 院

編 集 人 久 松 榮 一 郎

昭和24年8月1日発行

電 話 駒込 (82) 0714

発行兼印刷人 石 村 卓 三